

「館山市立小中学校再編計画」(案)

パブリックコメント実施結果

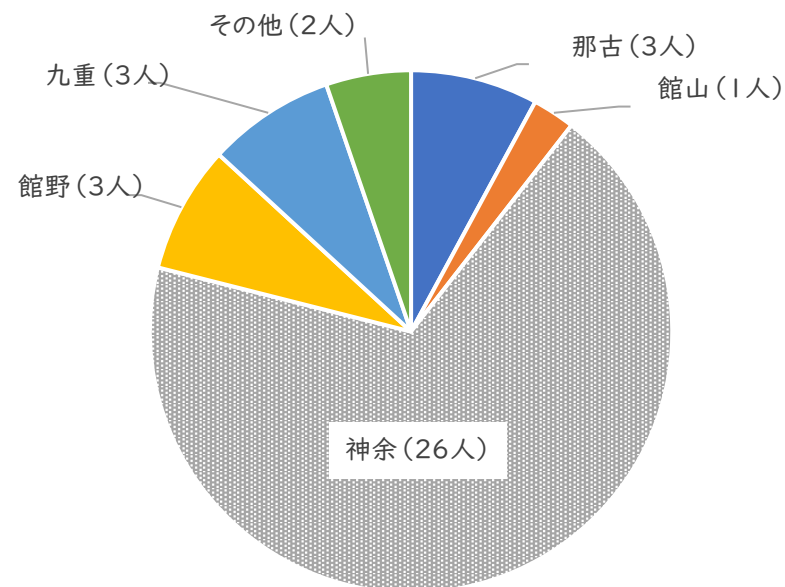
実施概要

- 1 期 間：令和6年10月7日～11月4日
- 2 対 象：市民及び市内小中学校に在籍する児童生徒の保護者
- 3 公表場所：市ホームページ 市役所本館ロビー 図書館 コミュニティセンター 菜の花ホール 豊津ホール 各地区公民館
- 4 周知方法：市広報誌による掲載 報道機関への提供 市公式SNS発信（LINE・X・Facebook）
- 5 提出方法：パソコン・スマートフォン／QRコードによる専用フォーム又はメール提出 郵送 持参 FAX
- 6 留意点：匿名不可（同一人物から重複した意見提出を避けるため）

実施結果

- 1 提出数：38件（うち1件は市外在住の保護者以外であるため参考扱い）
- 2 計画案に主として反対する意見：9件

【 地区別の意見提出者／人数 】



【 反対意見の概要 】

種 別	人 数	意見 (No.)	学校区	意 見 概 要
計画(案)の全般に 反対する意見	4	12	神 余	学校統廃合の方法で、目先の問題を解決するだけでは館山の未来は暗い。
		13	神 余	子供の声が反映されていない。目先の問題解決のために学校統廃合を進めるだけでは未来がない。
		26	神 余	各地区で築き上げた生活観や伝統文化等の継承が難しくなる。
		28	神 余	地域とりわけ学校関係者の意見集約は、あまりにも少なく不十分 児童数確保の責任（神余分校）は、市にあり、その意義を広く知らせ全国に発信する計画とすべき。
計画(案)の一部に 反対する意見	5	3	那 古	那古小・船形小の統合までの期間が少なく、統合準備期間に疑義がある。 中学校の1校体制への不安感
		6	神 余	中学校の選択肢が無いこと（1校体制）への疑義
		23	神 余	中学校にも小規模の選択肢があった方が良い。
		24	神 余	中学校の選択肢が無いこと（1校体制）への疑義
		37	市 内	神余小は分校ではなく、房南小と統合すべき。
合 計	9			

総 括

- 公表した「館山市立小中学校再編計画」（案）を成案とする。（修正点なし）
- （理由）
 - ① 多数の市民に関係する市全体の学校再編計画であるものの、パブリックコメントにて寄せられた反対意見が少数であったこと。
 - ② 「館山市立小中学校再編計画」（案）の公表後、市内各地において大きな反対運動や意見が無かったこと。

提出意見及び市の回答

No.	区分	学校区	ご意見（下線は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
1	市内居住	那古	那古小学校と船形小学校の合併に関しまして。 保護者の車で送迎に関して現在、那古小学校の生徒だけでも県道 296 号線（和田丸山館山線）及び那古小学校までの間が、朝の通勤通学時間帯で、特に雨の日、暑い日、寒い日大変渋滞しており、徒歩で通学している生徒達も大変危険な状態です。また、保護者の方も送迎後の通勤、近隣住民の通勤時間と重なって、結構強引な運転となっております。この状態で、船形小学校の生徒が加わると、更に危険度が増すと思われます。そこで、車で送迎の抑制や通学バスの運行、別ルートの確保、バイパス那古交差点の県道 296 号線側に右折車専用信号の設置等、対策をお願い出来ればと存じます。	ご提案いただいたご意見を踏まえ、児童の通学上の安全対策を検討し、実施していく必要があると考えています。 なお、船形地区の児童は、主にスクールバスでの通学を予定しています。 また、令和 5 年度から運用を開始した亀ヶ原方面のバスルートに関しても徒歩通学の児童の安全性を考慮し、学校東側門からの出入りとしていますので、新たなスクールバス運行に関しても安全性を考慮したルート設定を検討していきます。
2	市内居住	那古	那古小学校での説明会また今回の意見徴収等、丁寧な取り組みをありがとうございます。 ① 神余小を分校として残されること、また令和 9 年度に再度存続を検討なされること、今後も丁寧な取り組みをお願いします。 ② 地域との関係の希薄化を防ぐためにコミュニティ活動への支援をお願いします。 今回は計画書を図書館で拝読しました。入口に今年度採択の中学校教科書ならびに採択されなかった教科書が展示されており、小学生らしいお子さんが見ていました。身近な場所への展示をありがとうございます。	学校再編（統廃合）に伴い、学校が無くなる地区も発生します。 公共施設の在り方を検討する中で、学校の跡地利用を含め、地域コミュニティを維持する方策について、地域の方々と共に考えていきます。
3	市内居住	那古	拙い文書で長文になりますが、予めご了承ください。小学校に関しての意見について述べさせていただきます。 <u>那古小・船形小の統合までの期間が、約 1 年 2 か月程度しか無い為、統合準備が十分に出来るのかとても疑問</u> です。今年度（令和 6 年度）から、地域の下承が得られているのならば、小学校の統合準備を分割して、進めても良かったのではないかと思います。那古小・船形小の統合（令和 8 年度）準備の為に関係者の皆さんは、大変だと思いますので、統合準備の計画を配慮していただきたかったです。令和 12 年度から仮に小学校を再度統合する際には、再び小学校名は変更になるのでしょうか。 次に、中学校に関しての意見について述べさせていただきます。 <u>中学校を最終的に 1 校（令和 13 年度）にしてしまった場合、いじめ等の対人関係のトラブルが起きた場合に、逃げ場という表現が正しいかわかりませんが無くなってしまい、不登校の生徒が増加するのではないかと心配</u> しています。南房総市の三芳地区で開催された、「三芳地区学校再編に関わる P T A 役員説明会の意見等について」令和 6 年 3 月 14 日に開催された内容について、一部抜粋します。6 ページ 15「他所が良くて、こちらが良くないというのがあるのかが知りたいです。」 （回答）例えば、あちらの学校とこちらの学校が同じだと選択の余地が無いですね。余計なお世話になりますが、館山市のことで懸念しているのは、中学校を 1 校にするとほかに選択肢が無くなってしまうことです。そこに行きたくない子がいた場合、南房総市にくることを検討しますが、条件を満たさないと認めません。そうすると君津を検討する。そういう状況は作りたくないで中学校も 2 校か 3 校があって、それぞれ特色があり、それに合わせて選択できるというようにした方が良いのかなと思っています。ですので、是非皆様のお考えがあれば校長のところへ行ってもらいたいです。 上記のことが会議録に書かれていました。様々な意見があるかと思いますが、 <u>館山市内中学校の通学区域は開放して 2 校体制</u> でもいいのかと思います。学校施設改修工事で、現状世の中が不況状態であるので、やむを得ない改修工事なら構いませんが、税金で運営している以上、不必要な工事はやめてもらいたいです。こども園・幼稚園・保育園と 3 種類あるので、幼稚園も 2 園休園しているので、現在の需要を市民に聞いて、どれかに統一してもいいのではないかと思います。	那古小・船形小の統合時期に関しては、中学校の統合を見据えた中で、（児童が小学校在学中に 2 度の学校再編を経験しないよう）令和 8 年度の統合とした計画です。これに伴い、統合までの準備期間が短くなっていますので、計画が決定次第、速やかに統合校同士での準備に入り、児童への影響が出ないよう最善を尽くしていきます。 また、中学校の 1 校体制における課題点に対する対策として、計画（案）に記載のとおり、現在の豊房小学校の跡地を利用し、専門性を高めた不登校児支援の方策を考えています。現在、全国的に「学びの多様化学校」（中学生含む）の設置が少しずつ進んでおり、市としてもそれら新たな種別の学校設置に向けた検討を行っているところです。全ての子供達に対して学びを提供できる環境の構築に向け、今後も努力していきます。
4	市内居住	館山	館山市に 2 年前に東京から移住してきました。ですが、教育のことを考えて、また 3 年後には東京に戻ろうと思っています。館山には館山の良さがあると思います。東京と同じような教科書にそった教育ももちろん大切だと思いますが、こちらにしかない里山の素晴らしさや自然の豊かさを小学校でも学べるようになるなら、こちらに土地を買い、残ろうと思っています。	ご意見にあるように、新たに設置する小規模特認校では、周辺の自然環境を活かした学習環境を積極的に取り入れた教育活動の展開を検討しています。 学校教育目標等に関しては、再編計画の策定次第、関係者等との検討を行い、令和 7 年春頃を目標に公表する予定です。

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
5	市内居住	神余	館山市立小中学校の再編計画（案）については、一定の評価ができる内容になっていると思います。 理由として、① クラス替えのできる規模を希望する声 ② 保護者・児童の選択肢として小規模を希望する声です。 いずれにしても市民の望むに答えた案であること、特に今までの経験の中で小規模特認校にて市内各地から授業を受けられる環境が出来たことは良かったと思います。	新たに設置する小規模特認校の教育課程等については、現在、市教育委員会として研究を行っており、令和7年春頃に、どのような教育目標・方針を掲げていくのか「たたき台」を示すことを目標としています。 また、小規模特認校を希望する保護者や子供が通える通学環境を整えていきたいと考えています。
6	市内居住	神余	この度の館山市立小中学校の再編計画（案）については、クラス替えができる一定規模を望む声と、保護者・児童の選択肢として小規模を望む声にも応えた案で、一定の評価ができる内容となっていると感じました。今まで普通の学校に通えなくて困っているお子さんやご家庭を間近で見てきた経験のなかで、小規模特認校というかたちでそういった子も平等に授業を受けられる環境をつくったことは良かったと思います。 <u>しかしながら、これは小学校のみです。多様性を認め、少数の意見にも耳を傾けた案のように見えますが、中学校になるとそのような子の行き場はなくなってしまいます。そういう面では疑問の残る内容となっています。</u>	中学校の学校規模に関しては、学識経験者や学校教育関係者からなる有識者会議においても、教科指導の充実を図るため教科ごとに複数の教員配置が望ましいこと、生徒の興味・関心・能力等が多様化する時期であり、生徒の成長にとって複数学級の編制が求められていることなどから、将来的に1校体制とした計画としています。 また、中学校の小規模特認校を設置している県内自治体は非常に少なく、設置自治体の実態としても、地域外から通学者はごく少数であり、仮に中学校の小規模特認校を設置した場合、中学校における複式学級となる可能性も残るところです。 なお、不登校児などへの教育環境の提供については、計画（案）に記載のとおり、現在の豊房小学校の跡地を利用し、専門性を高めた不登校児支援の方策を考えています。現在、全国的に「学びの多様化学校」（中学生含む）の設置が少しずつ進んでおり、市としても新たな種別の学校設置に向け、検討を行っているところです。全ての子供達に対して学びを提供できる環境の構築に向け、今後も努力していきます。
7	市内居住	神余	私は東京からこの館山に来ました。住めば都と言いますが、本当に素晴らしいところだと思います。館山に来てから数十年の間に、私のように他の地域から来た人たちとの様々な交流がありました。そのなかでよく聞くのが、「こんなに良いところなのに、なんか活かされていないよね」首都圏にありながら、海、山の自然に囲まれ、ちょうどいい田舎が楽しめる「もったいないよね」という言葉です。そんななか出された館山市立小中学校の再編計画（案）ですが、房南学園の施設を活かした海に近い小規模校、神余小学校を活かした里山の小規模校、そして街中の標準規模校、と館山の良さを活かしたものとなっています。館山に移住してくる理由は色々あるとは思いますが、子育て世代の方にとって教育（学校）は、最も重要なことだと考えられます。その点で、このような選択肢があることはとても良い案だと思いました。	教育委員会では、今回の学校再編を単に学校の「統廃合」とは考えていません。統廃合ではなく『再編』であり、これまでの流れを大切にしつつ、その流れの先には『新しきもの』・『より良きもの』を“創造”していきたいと考えています。 計画策定後は新たな出発として、計画に掲げた「新しい学校づくり」を着実にを行うことが、市の魅力を高める一助になると考えています。
8	市内居住	神余	館山市の学校再編問題については、各家庭で多様な問題を抱える時代になり、少子高齢化や過疎による地域問題や財政と市の課題も多い中、館山市小中学校再編計画（案）がだされ“将来を担う子供達に良好な教育環境を提供するために”をスローガンに掲げ、よく考えていると感じました。 小学校に関して普通規模校を館山、北条市街地にまとめ、市の南（市堺）に位置する神戸、神余地区に小規模特認校一分校（案）を出され確認しましたが、子供を通わせたい学校（規模）を誰もが選べられる選択肢を与える計画（案）は、県南においても先駆的取り組みであり、館山の子育て世代に魅力を与える良い計画です。	“将来を担う子供達に良好な教育環境を提供するために”のスローガンについては、再編計画の策定に深く携わった「館山市学校再編調査検討委員会」の委員の方からのご意見によるものです。 このスローガンに基づき、これから「新しい学校づくり」に向けた取組を実施していきます。

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
9	市内居住	神余	今後の少子高齢化に伴い、子ども達の事をいろいろ考えて下さりととてもありがたいと思います。クラス替えの出来る児童・生徒維持はとても大変だと思います。館山市の学校が少なくなってしまうのは淋しいですが、行政や維持費などの苦労も感じます！ありがとうございます。 小規模特認校が分校も含め2校あるということは、保護者児童が学校を希望し選んで通えることになり色々な選択枠、世界が広がる事に感謝したいと思います。36人を維持出来るかは、なかなか厳しいと思いますが、維持出来るように皆さんが興味をもってくれる事を願います。	市内の方々や市外からの移住者には選ばれるため、行政として実施すること、 地域の方々を中心となって行うべきことがあると考えています。 行政と地域の双方が、それぞれの立場を尊重しつつお互いの協力のもとで進めて行きたいと考えていますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願い致します。
10	市内居住	神余	小規模特認校という選択肢があることは、教育の多様性や子どもの個性を伸ばすために大きな意味があると思います。学校の規模によるメリット・デメリットはいろいろ考えられますが、各家庭で子どもの教育環境について改めて考える機会をもつことは、とても大事なことでしょう。行政としては経済効率を重視するのは当然ですが、「国の宝」である子どもたちの豊かな将来を優先した施策を今後ともお願いいたします。	計画に掲げた学校再編の取組を着実に実行し、子供たちに「より良い教育環境」を提供し続けていくため、今後も努力し続けていきます。 また、子育て支援全般としても、非常に厳しい行財政運営の中においても創意工夫をしつつ様々な施策を展開していきたいと考えています。
11	市内居住	神余	私は神余小学校出身の安房高校生です。神余小は自分自身が育った学校であるという主観だけでなく、人数が少ないために子どもたち一人ひとりに大人が丁寧に教えることができ、学力や人としての生活態度も良くなると考えています。 複式学級も悪いことではなく、学年の差があっても仲良くできる利点があると感じています。条件付きではあるものの市が神余小を残してくれたことに感謝しつつ、これからも残って欲しいと思っています。	現役高校生として、パブリックコメントに意見を頂き誠にありがとうございます。複式学級のメリットについても、実体験をもとに意見を頂き、重ねてお礼申し上げます。行政としても複式学級のメリット、デメリットに関しても理解した上で、これまで地域の方々と意見交換をしてきました。 行政の業務は、市民全体にとって何が最善なのかを、市民の方々と共に考え実行していく仕事です。今後とも、地域のこと公共の在り方のことなどに関心を持ち続けていただき、将来一緒に汗を流せるようになることを期待しています。
12	市内居住	神余	館山の大人たちが、いったいどれだけ本気でこの再編計画の事を考え、動いたのでしょうか？ごく一部の関係者だけなのではないでしょうか？ 動いてくれた方々や、本気で考えてくれた方々には感謝の気持ちでいっぱいですが、子どもたちの未来のために、もっとたくさんの大人が本気で考え、動けるようになればいいなと思います。 <u>統廃合と言う一辺倒のやり方で、目先の問題を解決するだけでは館山の未来は暗いまです。</u> 子どもを増やすこと、そのためにはどうすれば良いか、プラスにするための動きをするべきだと思います。少子化を憂いて統廃合した先の未来は？子どもゼロです。 もっともっと子どものためにたくさんお金を使って欲しい。子育てしやすい環境がなければ、子育て世帯は定住しません。市外に流れ出てしまう一方です。子育て世帯への補助金要らないので、市民税・所得税などの免除の方が嬉しいです。お金をばら撒くのではなく、無理に徴収してるものを無くして欲しい。そして、育ち盛りの子どもたちの給食について。これだけ農業が盛んな地域なのだから、地産地消の無添加を意識した自校給食を全ての公立校で実施すればいいのにと 생각합니다。 新しい学校を作るお金と時間があるのであれば、各学校に小さな給食室を作ることは可能だったのでは？ 雇用も生まれて循環型の社会が成り立つのでは？ 私たちの血税の使い方、もっと考えて欲しいです。	今回の学校再編の取組に関しては、市内の全ての地区で共に考えて頂いた数多くの方々がいます。「これからの子供達にとってどうあるべきか」・「地域から学校が無くなることに対する不安感」などを考え、色々悩み葛藤しながら結論を出していただいたと考えています。 ご意見のとおり、潤沢な財源があれば子育て支援のための様々な取組が実施できますが、現実的には厳しい状況にあります。また、全ての学校で自校給食を実施するためには、施設改修にかかる多額の初期投資が発生するとともに、カロリー計算やアレルギー対応を踏まえた献立を作る栄養士、給食作る調理員など、運営するための経費もセンター方式よりも増加し、市民への負担が多くなってしまうこともご理解頂ければ幸いです。

No.	区分	学校区	ご意見（下線は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
13	市内居住	神余	各地区の再編活動への参画、関心度はそれほど高くなかったと感じています。さらに<u>学校の主人公である子どもの声が全く反映されていない計画案</u>。大多数の意見に巻かれ、時代の流れだから、しょうがないと沈黙する大人たち。ただ、<u>且先の問題解決のために、統廃合を進めるだけでは館山市に未来はない</u>です。どうやって子どもを増やすのかは不透明なまま。市としてどう考えているのでしょうか。学校は、それぞれの地域に根付いているものです。大人たちが子どもにもっと関心をもって、より良い環境を協力して作っていきえるようになればいいと思ってます。魅力のある学校作りに期待しています。 もっと魅力ある街づくりや教育環境を充実させてもらいたい。子育てしやすい環境がなければ、子育て世帯は定住しません。県内他の市と比べてストロングポイントがない。学校給食に関していえば、一次産業が盛んな館山市において自公給食を実現させれば、地産地消が可能となるし、地域も社会も循環して新たな雇用も産まれるのでは？ 工夫次第で経費削減にも魅力にもなるのでは？	今回の学校再編の取組について、子供の発達段階を考慮し小学生等に意見を聞くことは、行ってきませんでした。その理由として、多くの子供達は今の学校に愛着を持って生活しており、それらは学校アンケートからも読み取れます。学校規模の違いによる教育上のメリット・デメリットを他との比較の中で考えるのは難しく、また、現代社会における課題点、教育行政に要する経費などを理解し判断することは、大人の責任であると考えたためです。 また、国全体の少子化が進行する中、子供を増やす施策を基礎自治体が行うには限界があり、仮に実行した場合の費用も市民の負担によることとなります。自校給食に関しましては、先のNo. 13の回答をご確認いただければと思います。 最後になりますが、ご意見いただきました「魅力ある学校づくり」に向け、地域の方々と共に新たな取組をしていきますので、ご協力のほどよろしくお願いします。
14	小中学校保護者	神余	小中学校再編計画案を拝見して、神余小と房南小を小規模特認校にする案について、館山市教育委員会の子どもや地域に対する思いの温かさと施策の深さを感じ賛同しております。 児童数が年々減少しつつけているにも関わらず、不登校の児童が激増している日本の義務教育の現状には理由があると思います。その主なものの一つは、昔から続く一斉教育だと思います。あるメディアによると海外の教育関係者が日本の義務教育を評価している点の一つとして、児童自らが学校内を掃除することが挙げられています。私も同感で、日本の義務教育には素晴らしいところが多々あると感じています。しかし、かつて集団就職が行われていた頃に最も重要視されていた「みんなと同じようにできる協調性を育む教育」は、教員が児童にほぼ一方的に学習指導を行う一斉教育となって残り続けており、子どもたちの価値観や学び方、過ごし方が多様化した現代社会に合わないと思います。このことは今年1月にNHKスペシャルが現代の学校教育について2週にわたり特集した際に、今の教育現場の根本的な問題として取り上げられてもいました。それに対し、一人一人に目が行き届く小規模校は、児童の体や心の変化、また学習や育成、生活面の様子においても見落とすことが少ないため、児童によっては一斉教育のスタイルより向いているように思います。今回の計画案の秀逸な所は、児童が標準規模校も小規模校も選択できるという教育環境づくりであり、その点を多くの人が高く評価しているように感じています。 小規模校が優れている点としては、全校児童数が少ないため自然と学年を超えた交流があり、それを通して子どもたちに欠かせない心の成長が育まれることだと思います。そのポジティブな例として、現在の義務教育を積極的に改善しようと努めている広島県が、子どもの幸福度や教育水準が世界一とも言われるオランダで多く行われているイエナプラン教育を取り入れた公立小学校を開校しました。 イエナプラン教育は、複数の学年が同時に授業を行う「異年齢教育」を教育効果があると意図的に行っています。それは、現在館山市内いくつかの小学校で行われている複式学級に通じるものですが、小規模校では異年齢の子どもたちが自然と仲良くなり勉強や遊びだけでなく、生活全般のことを教えあう形ができます。それは、児童の育成にも学習にもとても良い環境で、またいずれ異年齢があたりまえの社会に出ていく子どもたちにとってよい経験になると思います。 また別の視点から申し上げますと、財政が切迫している館山市において、児童数の少ない小規模校が市の財政に大きなダメージを与えるように感じる人もいるかもしれませんが、小さな学校のために市が年間に支出する金額は、市の歳出額のたった1900分の1ほどです。もちろん我々市民の支払っている税金から成り立つ大切な公費です。ですが、標準校の運営のためにも相応の予算を使っているわけですから、地域の宝である子どもたちに、より優れた教育をするために、この位のお金を惜しむ必要はないように私は考えています。それよりも、この安房地域初の小規模特認校設立の取り組みを館山市の大きな魅力の一つと位置付け、移住促進施策で積極的にアピールすべきだと私は思います。田舎暮らしを希望していても地方についてあまり知らない都会の人には、どの市町村も移住	国全体の教育施策に対するご意見として、受け止めさせていただきます。 新たに設置する小規模特認校の教育課程については、市教育委員会としてもご意見のありました「イエナプラン教育」も含めて研究を行っており、それらについては、令和7年春頃に、どのような教育目標・方針を掲げていくのか「たたき台」を示すことを目標としています。 なお、小規模であるメリットを最大限活かした取組を実施したいと考えており、国が示す「個別最適化された学び」・「協働的な学び」の実践から「生きる力を育む」教育の場としても考えているところです。 また、今回の学校再編を通じて人口規模の小さな自治体にあっても、「標準規模校」・「小規模特認校」・「不登校児支援機関」を設置することなどにより教育環境の充実を図ることは、移住促進施策の一助になるとも考えており、そのためには、計画に掲げた「新しい学校づくり」を着実に行うことが、第一にすべきことだと考えこれから実行していきます。 市内の方々や市外からの移住者に選ばれるため、行政として実施すること、地域の方々が中心となって行うべきことがあると考えています。 行政と地域の双方が、それぞれの立場を尊重しつつお互いの協力のもとで進めて行きたいと考えていますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願いします。

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
			前にはさほどの違いが見えないと何人もの移住者から聞いています。そこで特色ある小規模特認校があることは他市との差別化となり、館山市の強力な「ウリ」になると思います。田畑、海、山、美味しいものはどの田舎にもあります。でもそこに魅力的な教育環境があるというのは、子育て世代にとってより強い求心力になると確信しています。 また、高齢化と人口減少が進むことで起こるコミュニティ力の喪失にも、小規模特認校は一役かって欲しいところです。神余地区のように学校があることで地域の結束が固くなり、厚みのある相互の助け合いの仕組みが続いていくことは、これからの地域社会にとってとても重要なことだと思います。小規模特認校はそういった意味でも館山市にとって大きな価値があると考えています。 教育委員会にお願いしたいことは、小規模特認校に合った教育方法の研究・研修を行っていただきたいです。また、教材などの資料やノウハウを蓄積していくことで、特認校に赴任した教員の方々の負担を軽減し、それにより生まれた教員の皆様の心と時間の余裕を、ぜひ子どもたちにフィードバックして頂けたらより素晴らしいと感じます。 小規模特認校に向いている児童もいれば標準規模校の方が合う児童もいると思います。今回、両方の学校を選べるようにした英断を機に、子どもにとって大切な教育について、保護者・地域・教員の方々・教育委員会・市が相互に理解を深めながら、「現代の子どもたちのための教育」を館山市で進めていただきたいと考えています。 小規模特認校の存在だけでなく、その内容・価値について、広く市民への周知をお願いしたいです。広報誌やLINE、ポスターやチラシなどを使って、ぜひ多くの方々に伝えていただきたいです。小規模特認校の活性化は、人口増加（移住者やUターン者の増加）や出生率の増加、高齢化の減少、市民の生活満足度の向上につながっていくと思います。	
15	市内居住	神余	2020年、子供が生まれるタイミングで、館山の神余に引っ越してきました。2022年には第二子も生まれ、現在4歳と2歳の子供がいる父親です。館山に引っ越してきた理由は、子供が成長していく上で最適な環境だと思ったからです。また、将来通うであろう神余小学校も、地元の方々に支持されており、少人数ではありますが、とても雰囲気の良い学校だと思ったからです。現在時点で、神余小校舎を小規模特認校の分校という形で存続させていただいたことには感謝いたしております。ただ、存続基準として全校児童36名以上というものはなかなか厳しいものだと感じております。 市の財政事情や、少子化における教育の問題など、さまざまなことはありますが、今回の存続基準は、正直存続させないようにする為の条件のように思えてなりませんでした。存続基準である36名以上をクリアするために、市としては対策を検討されているのでしょうか？ 市民任せでこれをクリアすることは、かなりハードルが高いように思いますがいかがでしょうか？ 神余小学校に現在通われているお子様や親御様、あるいはOBや地元住民、そしてこれから通う予定の方々など、神余小学校が存続することを強く望んでいる人が少なからずいる状況を考えると、無くすこと前提で話を進めていくのではなく、存続させること前提で話を進めていただくことが出来れば幸いです。 私がそうであったように、子供のためであれば、住む場所を変えたり、より良い教育を選んだり、と近年の親の行動の自由度は増しております。子供にとって大きなウェイトをしめる教育は、親にとって関心ごとの第一にあげられるものだと思います。小規模だからこそ出来る教育、地の利を生かした教育、自由度の高い教育、これまでにない思い切った教育など、館山をアピールするチャンスだと思っております。農作物や海産物以外の館山の地域ブランドとして、斬新で、一風変わった教育を提案することで、館山を教育の街に、そしてその教育を受けるために移住者が増えていくことを願っております。 最近では保育園留学なんて言葉もあるぐらいですから、学校教育においても、やりようによっては色々と可能性はあるように感じます。子供たちがイキイキ生きて、子供たちの将来が発展的であることの根っこが教育にあると思います。 子供たち一人一人の可能性を最大限に引き出した教育が、館山から生まれることを信じております。ありきたりな保守的な考えではなく、常に改革的なマインドを持って、子供たちの新たな道を切り開いて頂ければと存じます。勇気と希望を持って。お読みいただき、ありがとうございます。	小規模特認校の開設（房南本校・神余分校としてのスタート）については、No.11での回答として記載したとおりであり、その存続基準（人数）に関しても地域の代表者の方々と合意したところです。 存続基準に設定した人数の根拠は、計画（案）に記載のとおり一部の学年において複式学級の解消がなされ、全ての学級単位においてグループ学習ができる環境を満たすことが、そこで学ぶ子供達に最低限必要であると考えた基準です。 また、移住促進等のため、行政として行うこと、地域の方々が中心となって行うことがあると考えており、こうしたことも含めて、行政と地域の双方が、それぞれの立場を尊重しつつ、お互いの協力のもとで進めて行きたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。 なお、今回の学校再編を通じて人口規模の小さな自治体にあっても、「標準規模校」・「小規模特認校」・「不登校児支援機関」を設置することなどにより教育環境の充実を図ることは、移住促進施策の一助になるとも考えており、そのためには、計画に掲げた「新しい学校づくり」を着実に行うことが、第一にすべきことだと考えこれから実行していきます。

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
16	小中学校 保護者	神余	計画案について、賛同します。 行政側からの一方的な決定ではなく、市民や子どもたち、保護者、教育者、市議の方々の様々な意見や思いをしっかりと受け取り、膨大な労力と時間が注がれてこの案が作成されていると感じました。素晴らしいと思います。 今、未来の子どもたちのことを支え、応援し、巢立ちをサポートする教育環境をつくるには、これまでのやり方とは違った色々なことを考慮していかなければいけない時代です。それはとても複雑化していて、この計画案に辿り着くまで、石井教育長はじめ教育委員会の方々は大変だったと思います。 子どもの数の激減と逆行するかのような不登校児童の増加、様々な配慮を必要とするコンディションのお子さんへのサポートが増えていること。そして、教職員の方々の勤務環境を整え、支えることも急務なのは、他の自治体と館山市も同様と思います。クラス替えのできる規模の学校を希望するという大多数の保護者の皆さんの意見については、そういった環境のほうが子どもたちが伸び伸び成長できるとの考えは最もだと思います。一方で、小規模校で、友だちや先生との安定した関係を築き、互いの個性を認め合えるような環境のほうが生き生きするお子さんも少なからず居ることも理解しております。それゆえ、この計画案では子どもたちに「選べる自由」が与えられていることは、大変画期的かつ良い意味で現実的だと思います。 小規模特認校を希望すれば市内全域へバスの送迎が可能になるとのこと。自分の学区内の学校では合わない子どもたちや、スモールスクールを望むお子さん・保護者が希望を持てる特長だと感じました。さらに特認校は房南小と神余分校の二つの規模・特色が異なる学校を選べることも素晴らしいです。希望する児童の皆さんは、それぞれの特徴を見極めて、入学や編入を考えられたらいいと思います。 神余分校は、この再編計画案では期限と条件つきですが、神余地区はこれからの日本社会で必須となる地域コミュニティの結束が強く、小学校との連携も昔から取れています。おそらく他に類を見ない特別な小学校だと思いますので、ぜひ館山市・教育委員会・保護者・地域の方々と力を合わせて、令和9年5月までの条件をクリアしその後も存続していくことを大いに期待します！	現代社会における課題点（不登校児の増加）や学校を選択できる環境を整えることなど、計画案の骨子となる部分への賛同、ありがとうございます。 また、移住促進等のため、行政として行うこと、地域の方々が中心となって行うことがあると考えており、こうしたことも含めて、行政と地域の双方が、それぞれの立場を尊重しつつ、お互いの協力のもとで進めて行きたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。
17	市内居住	神余	再編計画案について思った事、これからの学校生活での不安と子供達の環境の変化の対応がちゃんとできるのか、今の様に元気に楽しんでくれるのが不安です。子供達にとって良い環境になるよう協力し合っていければいいと思います。	計画案にも記載しましたが、学校再編（統廃合）に伴い、子供達が環境の変化に対応できるよう市教育委員会としても学校と協力し様々なことを実施していきます。 具体的には、学校行事や部活動等において、統合校の児童生徒同士の交流行事の実施、再編前から在籍している教員を再編後の学校にも一定数配置するとともに、再編後の学級編成や担任の決定について十分な配慮を行うことなどです。 保護者や地域の方々とともに協力し合い、子供達にとってより良い環境になるよう努力していきますので、ご協力のほどよろしくお願いします。
18	小中学校 保護者	神余	大きな学校、小さな学校、メリット、デメリットはあります。ただ今回の再編案では、小規模特認校があり、自分で、より自分に合う、学校を選べるようになったこと、館山市の教育に必ずプラスになると思います。学校に行きづらかった子どもたちも、生き生きと、平等に、教育をうけられる環境が、整い、良かったと思います！ 私には、ギューギューのクラスは、辛いかも…	どのような環境であれ、子供達が平等に教育を受けれることは、一番大切にしていくべきと考えています。今回の再編計画をそのように評価して頂き、誠にありがとうございました。
19	市内居住	神余	計画案を見させてもらいました。僕は神余小出身ですが、中学や高校に上がると大人数の学校に進学するので、子どもの時は小さな学校で過ごせて良かったと思います。少人数の学校だと、上級生も下級生もお互いをよく知っているので、穏やかに安心して過ごすことができます。また、地区の人たちに応援される神余小の環境はとても良かったと感じました。今回の計画案で、神余小のような小規模校が残ることになり、大きな学校でも、小さな学校でも好きな学校を選べるようになったのは、子どもたちにとってとても良いことだと思います。	ご自身の体験からのご意見、ありがとうございました。 小規模特認校では、小規模であるメリットを最大限活かした教育活動を展開しつつ、その選択肢を市内の全児童に周知していきたいと考えています。

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
20	市内居住	神余	○ 各方面からスクールバスで通うことによる事故への対策をきちんとして欲しい。（行き帰りのバス停に待つ場所が広くあるのか、横断歩道、歩行者信号の有無、危険箇所など運転手の他に乗車チェックする人を乗せるなど） ○ 学校を選べる選択の幅ができた事がすごく良いと思う。学童の充実があれば更にもっと選択しやすくなると思う。 ○ 特認校を広める為の広報にぜひ力を入れていただきたいです。	児童の安全対策に関するご意見、ありがとうございました。 地域の事をよく把握している保護者の方々と共に、児童の通学上の安全対策を検討し、実施していく必要があると考えていますので、ご協力のほどよろしくお願いします。 また、小規模特認校を認知してもらうため、市の広報を使うことは有効な手段であると考えていますので、市公式ＳＮＳなど活用を含め、行政と地域のお互いが協力し合っていきたいと考えています。
21	小中学校 保護者	神余	今回、館山市再編計画を受けて、自分の子ども達は当たり前小学校、中学校に通うものだと思っていたけど、深く考えるきっかけになった。何が子ども達にとって良いのか。何が保護者にとって良いのか。何が地域にとって良いのか。何が館山市にとって良いのか。それぞれの環境によって考え方の違いはあって当然だけど『子ども達のために』『将来の館山市の為に』という思いは同じで、沢山の話し合いが行われたのは思いが強い証拠。これからも、親として地域の一人として子どもの教育、将来についてたくさん考えていきたい。	計画のスローガンに掲げた“将来を担う子供達に良好な教育環境を提供するために”を踏まえ、それぞれの立場で子供達のために考えていければと思います。
22	小中学校 保護者	神余	神余小学校を条件付きではありますが、すぐに無くさないとの計画案を出していただきありがとうございます。長い期間わからない事をゆっくり、丁寧にお教えくださり本当にありがとうございました。今の世の中は多種多様な子ども達やその家族がいます。その中で大人数の学校に行けない子ども達が多くなっていると感じます。たしかに大人数の中で人と出会い、将来に役に立つ色々な体験や経験も出来ている学校はとても大切だとわかっていてもいます。しかし、学校へ行けない子ども達に悲しい体験や経験はして欲しくはないのです。小規模の学校ならそんな子ども達やその家族の方々に学校へ通え、友達と勉強や遊ぶ、親達が親同士で色々な話が出来ると言う体験や経験をさせてあげられると思います。今後も力添えをよろしくお願いします。	小規模特認校では、小規模であることをメリットとして捉えた教育活動を展開していきます。 また、不登校児への新たな支援環境として、計画（案）に記載のとおり、現在の豊房小学校の跡地を利用し、専門性を高めた不登校児支援の方策を考えています。現在、全国的に「学びの多様化学校」（中学生含む）の設置が少しずつ進んでおり、市としても新たな種別の学校設置に向け、検討を行っているところです。全ての子供達に対して学びを提供できる環境の構築に向け、今後も努力していきます。
23	小中学校 保護者	神余	標準校に加え、小規模特認校と分校を作ることにより児童、保護者が選べる選択肢が増える事が出来るので、とても良い事だと思います。館山の良さを残す事にもなり、少子化を緩和出来る事に繋がってくれば更に有り難い事だと思います。 今回の再編計画には入っていませんでしたが、 <u>中学校にも小規模校の選択肢があれば良かった</u> のではと思います。	中学校の学校規模に関しては、学識経験者や学校教育関係者からなる有識者会議においても、教科指導の充実を図るため複数の教員配置が望ましいこと、生徒の興味・関心・能力等が多様化する時期であり、生徒の成長にとって複数学級の編制が求められていることなどから、将来的に１校体制とした計画としています。 また、中学校の小規模特認校を設置している県内自治体は非常に少なく、設置自治体の実態としても、地域外から通学者はごく少数であり、仮に中学校の小規模特認校を設置した場合、中学校における複式学級となる可能性も残るところです。
24	小中学校 保護者	神余	小規模特任校、分校という形で大人数に対応できる子とできない子のためにも選択肢として残してくれたことはよかったと思います それに加えて中学部的な中学生の居場所も作ってもらえたらと思ったりもします。コミセンにある不登校の子が利用できる場所のようなところは他にも必要だと思います。 <u>正直、中学校を一つにというのはどうなのかなって思います</u> 。せめて２中と３中を残すくらいならよかったのでは？ 部活動でも対抗試合ができる方が良いと思うし、それにスクールバスがあっても、不登校児が朝ちゃんと決まった時間にバスに乗るのは、ハードルがあるとおもいます。コミセンのような場所は各地何ヶ所か作ってもらえた方が良いと思います。	また、中学校の小規模特認校を設置している県内自治体は非常に少なく、設置自治体の実態としても、地域外から通学者はごく少数であり、仮に中学校の小規模特認校を設置した場合、中学校における複式学級となる可能性も残るところです。 なお、不登校児などへの教育環境の提供については、計画（案）に記載のとおり、現在の豊房小学校の跡地を利用し、専門性を高めた不登校児支援の方策を考えています。現在、全国的に「学びの多様化学校」（中学生含む）の設置が少しずつ進んでおり、市としても新たな種別の学校設置に向け、検討を行っているところです。全ての子供達に対して学びを提供できる環境の構築に向け、今後も努力していきます。

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
25	小中学校 保護者	神余	神余小学校を分校として存続させていただきありがとうございます、神余地区の熱い、諦めない気持ちが無事に結果として教育委員会、市役所の方に届いたと思います。神余小学校存続条件は中々難しいと思いますが館山市をあげての協力体制をお願い致します、せっかくのチャンスを無駄にすると、教育委員会、市役所の印象も悪くなってしまうのでは無いか？館山市初の取り組み小規模特認校なので神余以外の学校の再編で大変かと思いますが、結果を出す為、県外からの移住、学区外からの登校もバス対応、今後は子育て世代の方への周知協力をお願い致します、神余小学校は館山市の売りに必ずなります。	移住促進等のため、行政として行うこと、地域の方々が中心となって行うことがあると考えており、こうしたことも含めて、行政と地域の双方が、それぞれの立場を尊重しつつ、お互いの協力のもとで進めて行きたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。
26	市内居住	神余	館山市立小中学校再編計画（案）について拝見いたしました、館山市が以前まで各地区に学校を設けていた意味がなくなってしまうように感じました。とても安直な考え方とは思いますが、館山小学校に市内の子供たちが集合する形になると、 <u>館山市として各地区で築き上げた生活観や伝統文化等の継承が難しくなると考えている</u> 。生徒数の減少は、市としてもしっかり考えていることはよくわかります。しかしながら様々な地区のアイデンティティ的な部分を考慮した考え方が必要だと思います。	学校再編（統廃合）に伴い、学校が無くなる地区も発生します。 公共施設の在り方を検討する中で、学校の跡地利用を含め、地域コミュニティや伝統文化の継承などを維持する方策について、地域の方々と共に考えていきます。
27	市内居住	神余	再編計画（案）について、クラス替えのできる人数の学校と小規模校を望む声と両方あると思います。私は館山市内の大きな学校で過ごしました。大きな学校は大きい学校の良さ、悪いこともあると思います。小さな学校は小さいなりの良いことがたくさんあります。分校として残れたのなら、精一杯活動できる様に地元民として協力、応援していくつもりです。	ご意見のとおり、標準規模校・小規模校、それぞれにメリットやデメリットがあります。その中で学校を「選択」できる環境を計画とさせて頂いたところです。 また、移住促進等のため、行政として行うこと、地域の方々が中心となって行うことがあると考えており、こうしたことも含めて、行政と地域の双方が、それぞれの立場を尊重しつつ、お互いの協力のもとで進めて行きたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。
28	市内居住	神余	館山市と教育委員会が、市内の全小中学校を対象とした学校再編計画を発表したと10月8日の房日新聞に載った。「神余小を除く9校でクラス替えが可能となる学校規模を望む意見で纏まっており2026年度以降順次統合される」「神余小と房南学園を統合し小規模特認校とし、神余小を分校とする」と発表された。私は再編問題が気がかりで、市民の出前講座、豊房小、神余小の説明会に参加し、また、神余小を見学し校長先生の説明も聞いてきた。 1. <u>地域とりわけ学校関係者の意見集約は、あまりにも少なく不十分との認識はあるのか？</u> 説明会は、豊房小で8人、神余小ではなんと60人以上だった。会場から「他地区は何人参加者がいたか？」の質問に「9校で75人」と答えた。この差は、関心の無いまま放置された地域と、神余小のように真剣に取り組んだ地域との差であろう。これでは市民から了解を取り付けるパフォーマンスと取られても仕方がないだろう。 2. 神余小の「分校」について、児童数確保の基準は何により決定されたか？児童数確保の責任は、市民が負うのではなく教育委員会の仕事という認識はあるのか？ 神余小の説明会は、移住してきた親御さん、卒業生の父母、地域の発言など真剣そのものであった。地域の区長さん全員が「存続の要望書」を手渡す熱気あふれるものだった。「分校」という要望とは違う形だが一応学校の存続は決まった。しかし、提示された条件が大問題である。「条件」として「2027年5月で36人以上、27年以降5年間で36人以上確保できる見込みがある」とのこと。この36人という基準や5年間以上確保等基準はどこに根拠があるのか？そして何より問題なのは、児童数の減少に足して館山市は今まで何もせず、唯一全市で増えたのは神余小で、住民の積極的移住策があって全国から子どもが集まってきたという。36人以上集める責任は住民に押し付けるのか？ <u>分校として決定した以上、児童数確保の責任は館山市にあり、その意義を広く知らせ、館山市だけでなく全国に発信するくらいの計画をもって欲しい。</u> 3. 学校再編の目的は、財政削減にあるとしても、小学校1校への統合は反対である。4校の学校教育計画作成に急いで取りかかること。 神余小が、最も学級編成不可能な学校なのになぜ小規模校を望むのか、しかも、複式学級でもよし！という。ここにこそ教育の本質があるのではないかと思う。答申では文科省の平成27年の文書を根拠にしているが、今教育界は「認知能力」だけでなく「非認	多様なご意見ありがとうございます。 1点目についてですが、各地区で実施してきた説明会に至るまで、各学校単位において保護者の方々に文書やSNS（マチコミメール）などにおいて、学校再編の状況を度々情報発信してきました。その経緯に関しては、再編計画（案）と合わせて公表した「小・中学校の再編に関する保護者及び地区住民との意見交換結果」に記載してありますが、各地区15回程度は説明会や情報発信を行ってきたところです。 説明会に出席された人数だけではないことを、ご理解頂ければ幸いです。 2点目の児童数の基準(人数)についてですが、行政と神余地区の方々の様々な思いがある中で、最終的な合意点が「条件付きでの分校存続」となったところであり、その存続基準(人数)に関しても地域の代表者の方々と合意し地区の区長会での賛同を得ているものと承っています。 存続基準に設定した人数の根拠は、計画（案）に記載のとおり一部の学年において複式学級の解消がなされ、全ての学級単位においてグループ学習ができる環境を満たすことが、そこで学ぶ子供達に最低限必要であると市教育委員会として提案し、神余地区の方々からも合意を得た基準です。 なお、市では神余分校に限らず、再編計画に掲げた「新しい学校づくり」を着実に行之、市全体の学校教育の魅力を高め、市内外にPRすることが肝要だと考えています。一方、神余分校の児童数確保については、行政として行

No.	区分	学校区	ご意見（下線は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
			知能力」の育成に視点を当てている。まさに、神余小のように「自然に囲まれ、豊かな地域に囲まれた、体験、探究型の教育環境」という教育委員会の持つ視点である。ただ残念なのは、これを「神余キャンパス」という「施設」に閉じ込めて片手間に教育に取り入れようとしていることだ。神余小のように、極小、小規模校で初めて可能であり、大規模校ではこの計画は無理である。したがって4校までで統廃合再編は終了し各学校の教育計画作成に素早く取り掛かってほしい。その際、教師・保護者など学校の教育力だけでなく、子ども自身の持つ伸びる力を取り入れ、地域の教育力、専門家の力も借りながら目標を設定する、これは地域の活性化にも繋がると思う。 4. 豊房小の「不登校支援」について、機能を学校教育に狭めず、広い視点で取り組むこと。 不登校の専門的部署が確立することは大いに期待している。その機能を「学校に来る」ことを前提にしないで子ども達をどう支援したらいいのか、広い視点で取り組んで欲しい、その際「支援者会議」など、担任、保護者だけでなく、福祉・医療（心理判定師・心療内科医師など）、および地域のフリースクール、子ども食堂など地域の連携を取ると良い。くれぐれも、不登校の原因が児童の「やる気がない」という文科省の実態調査に縛られることなく、子どもの居場所を家庭や学校だけにせず、多様な視点で1人1人に向き合って下さい。 各地区の説明会に、石井教育長がご出席くださり、ありがとうございます。教育長が市民と直接話そうというのは、教育界にとって素晴らしいことです。その際、説得しようという態度が強く感じられたのは、いかにも残念です。伊那小学校の見学もし、意欲的に学んだことをぜひ生かして、リーダーとしての力を発揮されることを期待します。ありがとうございました。	うこと、地域の方々が中心となって行うことがあると考えています。こうしたことも含めて、行政と地域の双方が、それぞれの立場を尊重しつつ、お互いの協力のもとで進めて行きたいと考えています。令和6年11月には、神余地区において新たに組織された地域団体の代表の方々と、話し合いを始めたところです。 3点目の学校教育計画の作成についてですが、再編計画の策定により各学校や関係する方々と共に、新たな学校づくりのための組織をつくり学校教育目標等の作成を行っていきます。 4点目の不登校児への支援策についてですが、現在もカウンセラーや福祉や医療の専門知識のある外部機関との連携による支援を実施しており、計画案には「学びの多様化学校」の設置検討についても記載したところです。 また、子育て支援におけるより広い視点での取組として「こども家庭センター」の設置に向け庁内組織の改編についても現在検討しているところです。今度とも、先進自治体の取組例、地域で活躍されている多方面の方々の協力を仰ぎながら、新たな学校づくりに努力していきます。 ※ ご意見ありがとうございます。子供達のこと、学校のことを毎回熱く語り合えたことは、大変有意義であったと思っています。思いが高じたとはいえ、ご指摘のように感じられることがあった事については、私の不徳の致すところであります。今後とも精一杯務めさせていただきますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。（教育長）
29	小中学校 保護者	神余	私は、単身赴任の為、市外で生活していますが、子ども達ののびのびとした学校生活を良く聞きます。 いろいろと大変だと思いますが、子ども達の事を沢山考えて今回の計画案が出されたと感じます。今の世の中あちこちの市で再編が行われていますが、子ども達のこれからの為、行政の為、やむを得ない再編だと思いを通させていただきました。 いろいろな学校を統合しないと児童の人数が揃わない現状も理解しました。少人数の方が子どもには合っているや過ごしやすいなどのご家庭にも2校選べる小規模校がある事はとても良いと思います。 スクールバスも利用出来る為、送迎の心配が無いのはありがたいですね。ありがとうございます。	小規模特認校では、小規模であるメリットを最大限活かした教育活動を展開しつつ、その選択肢を市内の全児童に周知していきたいと考えています。
30	小中学校 保護者	神余	この度館山市立小中学校再編計画（案）について、今の時代少子化ではありますが、今まで普通規模校に通えなく困っている子どもや家族がたくさんいるのを間近で見してきました。その中で、小規模特認校という形で、そういった子も平等に授業が受けられ学校に通えるという環境をつくったことはとても良かったと思います。	どのような環境であれ、子供達が等しく教育を受けれることは、一番大切にしていくべきと考えています。よって、小規模特認校以外の新たな取組として、不登校児支援に対する対策も計画に掲載しています。 （現在の豊房小学校跡地において「学びの多様化学校」の設置検討）

No.	区分	学校区	ご意見（下線は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
31	市内居住	館野	館山市で初めての小規模特認校の取り組みを応援します。本校と分校ならではの教育課程を編纂し、子どもたち一人一人が生き生きと学校生活をおくれるようにして欲しいです。市内はもとより、市外からも入学を希望する方が増えるといいです。 この計画をまとめるにあたり、館山市教育委員会や調査検討委員会の皆様、関係された皆様の熱意に敬意を表します。教育の環境を整えることは、もしかしたら館山市の人口を増やすことにつながるかもしれません。それが「館山市立小中学校再編計画」（案）の本質ではないかと感じました。	今回の学校再編を通じて人口規模の小さな自治体にあっても、「標準規模校」・「小規模特認校」・「不登校児支援機関」を設置することなどにより教育環境の充実を図ることは、移住促進施策の一助になるとも考えており、そのためには、計画に掲げた「新しい学校づくり」を着実に行うことが、第一にすべきことだと考えこれから実行していきます。
32	市内居住	館野	2020年に東京から館山に移住し、現館野小学校のエリアに居住地がある者です。2歳の娘を育てているので、将来的に館山市内での小学校入学を視野に入れています。ただ教育環境の充実度合いによっては教育移住も検討しております。ですので、今回の再編計画や小規模特認校がどの程度、個の独自性を尊重し、さらに学びへの意欲をかき出す体験学習などの自由なカリキュラムを作っていける場所になるのか注目しております。 子供の人数減少への対策としての合併に関して概ね理解はしておりますが、移住を検討する親の立場として考えをお伝えさせていただくと、移住を決定する際の重要なポイントとして、やはり教育環境がどこまで充実しているのか、居住検討地と学校の距離などをふまえて、選択肢が多い方が魅力に感じます。小学校の数が減るほど、選択肢は減っていくので各学校が個性を出していかなければ移住先として選択する魅力が減少すると思います。現在の人口減少をそのまま受け入れるのではなく、今後の移住者を増やす方向でも考えていただき、この自然豊かであり東京との行き来もしやすい館山ならではの魅力を教育環境にも活かしてほしいと考えています。その点で、今回の案に上がっている小規模特認校はカリキュラムや地域の方の関わり方によっては、とても魅力のある学校に生まれ変わるのではないかと期待をしております。小学校を検討するにあたり、私自身も教育に関して学びを深めている最中ですが、映画「夢見る小学校」で取り上げられている「きにくに子どもの村学園」のような自己決定、個性化、探求学習を大事にしたカリキュラムの導入を考えていただけると、自己肯定感が高く自立した子供が育っていくのではと考えております。 先日行われた学習会で「イエナプラン」というドイツ発祥でオランダの学校で多く採用されている教育モデルを勉強させていただき、カリキュラムの中から今日取り組む課題を自己決定できる自由度があったり、何のための学びなのかが子供自身にも分かる生きた教育を大事にしている、やりたいことを決定したあと、それを実現するためにどのような学びが必要かを考え取り組んでいくなど、私自身もこんな小学校に通っていたら、学びが楽しかっただろうなと感じる工夫を沢山学ぶことができました。単に外国の教育法を取り入れるではなく、古くから日本にもあった寺子屋や、映画「窓際のトットちゃん」でも取り上げられていた「ともえ学園」などと繋がる部分も多いことも大きな発見で、日本の良き文化を取り戻し、教育に繋げていく事の可能性を感じました。小規模特認校では、ぜひそのような方向性も検討していただき、個を活かしそれを軸に共生していくことを学ぶことにより、社会に出た時に自分の特性を理解してより良く活かし、円滑なチームワークで物事を発展させていけるような人財を育てていける環境を教育関係者の方々、保護者、地域の方々に創っていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。 小規模特認校（分校含む）では、ぜひ自校式の給食を取り入れていただきたいです。現在は給食センターで一括して調理されていると思うのですが、炊飯施設がないなど、災害時の役割を担うことが難しいのではと感じております。市内全ての学校で自校式は難しいと思いますが、小規模特認校であれば生徒数も少なく、地域の方々の援助等も得やすい環境であり、特殊な取り組みだとしても、児童、保護者とも選択をして学校選びをしていると思うので、話し合いなどで意見が一致すれば現実になるのではと考えています。現在の給食は、地産地消といっても館山、南房総エリアの農産物は7%ほどの使用と聞きました。食育の観点からしてもやはり地のものを旬な時期に食べてもらいたいという願いもありますし、給食という販路があることで、地域の農業が活性化していくことにも繋がるのではないのでしょうか。大人数の給食に対応するために使用する加工食品だけでなく、作りたてのもの、生産者の想いが詰まった地のものを美味しく食べてもらいたいというのが、いち保護者としての願いです。調理中に漂ってくる香りを感じることで、頑張っている自分たちの食事を作ってくれている調理の方がいること、生徒自身が感じることに繋がり、より感謝の気持ちを持って給食をいただけることにも繋がるのではないかと考えております。こちらも合わせてご検討よろしく願いいたします。	新たに設置する小規模特認校の教育課程については、市教育委員会としてもご意見のありました「イエナプラン教育」も含めて研究を行っており、それらについては、令和7年春頃に、どのような教育目標・方針を掲げていくのか「たたき台」を示すことを目標としています。 なお、小規模であるメリットを最大限活かした取組を実施したいと考えており、国が示す「個別最適化された学び」・「協動的な学び」の実践から「生きる力を育む」教育の場として考えているところです。 また、今回の学校再編を通じて人口規模の小さな自治体にあっても、「標準規模校」・「小規模特認校」・「不登校児支援機関」を設置することなどにより教育環境の充実を図ることは、移住促進施策の一助になるとも考えており、そのためには、計画に掲げた「新しい学校づくり」を着実に行うことが、第一にすべきことだと考えこれから実行していきます。 最後に、自校給食を実施するためには、施設改修にかかる多額の初期投資が発生するとともに、カロリー計算やアレルギー対応を踏まえた献立を作る栄養士、給食作る調理員など、運営するための経費もセンター方式より増加します。市全体の学校施設が老朽化しているなか、統合後も活用していく学校施設の改修や近年の気候変動を踏まえた特別教室（理科室など）へのエアコン設置など、市民の皆さまのご負担に頼ることが多々予想されますので、市全体の限られた財源の中で、緊急性が高い案件から実施していくことをご理解頂ければと思います。

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
33	市内居住	館野	館野地区の者です。子供は3中に通学していましたが、雨の日の送迎が混雑していました。令和9年度から小学校も北条小に統合されると、今までの館野小よりかなり距離が延び送迎車が増えると考えられます、市役所前の道路の拡張などご検討下さい。	児童生徒の通学上の安全対策や周辺道路交通環境への対策は、市としても必要事項と認識しており、計画策定後に改善策を検討し実施していきます。 なお、市役所前の道路拡張などの抜本的な解決には、多額の費用と時間を必要としますが、スクールバスの導入、雨天時の送迎場所の確保、送迎のルール作成周知など、順次検討し実施していきたいと考えています。
34	市内居住	九重	教育長はじめ、教育委員会の皆様が頭を悩まされ真摯に考えて下さった案だと感じています。 この計画が、子供達のよき未来に繋がると信じて。統合して入学予定区域の大規模校、小規模特認校2校の計3校にて、入学前にそれぞれ日程をずらして体験入学を開催して欲しいです。可能であれば、入学先の子供達がいる中での授業体験を希望します。平日で普段の授業の様子・学校施設を子供も体験もしくは見学し、入学先を子供に選択してもらいたいと考えています。	学校見学（オープンキャンパス）の実施について、その必要性があると考えています。しかしながら、平日に実施する事は、現在通学している学校の授業を欠くことにもなりますので、実施日については学校とも協議しつつ適切な日程を設定したいと考えています。
35	市内居住	九重	賛成です。このタイミングで今までの教育や環境についても考えていく必要があると思っています。 今は、教える者（先生）と教えられる者（生徒）という縦の関係が強いため自ら学ぶということや自主性が育ちにくいのでは、と感じています。横に近い関係性（日常的に対話があるなど）になるような、今までとは違うカリキュラムにしていく時にきていると思います。 子どもの自由に遊ぶという環境が少なくなっていると感じています。家庭や学校などで、あれはダメ、これはダメ、公園でも禁止事項があるなど言われることが多すぎて、こども達は伸び伸びと学んだり遊んだりということができにくくなっていると思います。 自由に遊べる環境は学びが多くつまっていると思いますので、学校以外の学びの場（プレーパークなど）の設置も併せて考えてもらえたらと思います。	新たに設置する小規模特認校の教育課程については、市教育委員会としてもご意見のありました「イエナプラン教育」も含めて研究を行っており、それらについては、令和7年春頃に、どのような教育目標・方針を掲げていくのか「たたき台」を示すことを目標としています。 また、小規模であるメリットを最大限活かした取組を実施したいと考えており、国が示す「個別最適化された学び」・「協働的な学び」の実践から「生きる力を育む」教育の場としても考えているところです。 なお、市内各地には子供が遊べる広場が少ないとのご意見も頂いているところです。学校跡地の利活用などについて、ご意見を含めた検討をしていきたいと考えているところです。
36	市内居住	九重	小規模特認校について。従来の教育指導にとらわれず、「イエナプラン」や「きのくに子どもの村学園」や「トモエ学園」をお手本にするような、「こども達の自由な学習意思が核となる」、「こども主体の自治(校則や行事など)」、「日常的に対話形式が基本となるような」学校を期待している。 ○ 「ノー宿題」、「ノーテスト」、「ノー通知表」、「ノー校則」を実地し、大人が数字でこどもを評価せず、「その子がどう学びたいか」「一人一人がどう成長したか」を大事にできる学習方法を希望する。そのためには、先生方の具体的な研修が必須となり、とても大変なことだとは重々承知しているが、少しずつ一歩ずつやっていき、こども達や保護者と共に学びあって行けたら素敵だと思う。 ○ 全学童に「プレーパークの日」を設けることにより、こども達の自由な遊び環境を整えていくと、自分の足でプレーパークに来れない子達にも遊べる環境を作ることができる。千葉市で公設民営にて運営しているプレーパーク「こども達の森公園」では、学童さんに出張プレーパークをしているので、視察見学しに行ってみて頂きたい。	

No.	区分	学校区	ご意見（ <u>下線</u> は、計画案に対する反対意見に類されるもの）	市の回答
37	小中学校 保護者	市内 その他	個人的には、様々なことを総合的に考えた時、小規模校を統合していくべきだと考えています。 <u>神余小の再編については、二転三転あって「条件付きでの分校存続」ということになったようですが、個人的には反対です。神余小は房南小と統合すべきだと考えます。</u> 1. 市全体の学校再編としての取組として考えた時、一部の地域に対して特別な措置をとっているように感じるためです。不公平感を感じる他地区の方も多いのではないのでしょうか。 2. 存続条件を満たすための活動がより一層増え、保護者の負担が増すことが懸念されるためです。保護者の過負担は、子供たちにしわ寄せがいつてしまうのではないのでしょうか。 3. 「館山市学校再編調査検討委員会」の方々の意見を讀むと、神余小を残すことに対して全体的に否定的な考えであるためです。どの意見も論理的で納得できるものでした。 4. 子供のよりよい成長を考えた時、あまりにも少ない集団での教育活動では限界があるためです。 今後の懸念事項として・・・仮に、神余小の子供が大規模校で学びたいと考えた家族がいた場合、「人数の条件 36 人」がネックとなり、母数の 1 人が抜けることは簡単にできない心理状況になっていくのではないのでしょうか。 「館山市学校再編調査検討委員会」の方々が、多面的で公平的で建設的な話し合いを重ねていたことが、報告書などを讀んでよく伝わってきました。度重なる会議など大変だったと思います。ありがとうございました。	安房地域で初めてとなる小規模特認校の開校に向け、その中核となる地域の方々と度重なる協議を重ね、その合意として「房南本校・神余分校」という形での計画案となりました。 この合意の中には、ご意見として頂いた「子供のよりよい成長を考えた時、あまりにも少ない集団での教育活動では限界がある」ことも事実だと認識しているため、それらを少しでも改善するため 36 人という条件を付させて頂きました。 それぞれが、それぞれの立場で「子供達にとって何が最善な選択なのか」を考えてきたことは事実であり、その中で、このような結果となったことをご理解頂ければ幸いです。
38	市外 (参考意見扱い)	市外	私は、パブリックコメントの対象区分になっていませんが、今回の館山市立小中学校の再編計画（案）に興味がありましたので、意見を述べさせていただきます。 私は、神余小学校の卒業生です。今は結婚して子どもがいます。この先数年後、子どもが学校に入る年齢になったとき、神余小に入学させることを考えていました。そんな中、学校再編の協議が行われていることを知りとても心配していました。私は、地元の高校を卒業した後、数年間の東京生活を経てUターンしました。神余小（神余地区）での教育は、私にとって、とても良い経験であったと身にしみて感じました。私のこどもたちにも経験させてあげたいと思っています。ぜひ、他の自治体からも通えるようにしていただきたくお願いいたします。	他自治体にお住いの方から良い学校だと認識されることは、大変光栄でありがたいことです。 しかしながら現実には、他の自治体同様、館山市においても市外から館山市立の小中学校に通学することは、難しい状況です。 公立の学校運営には、市民の税金が充てられていますので、市民の理解を得るためには、住所地の自治体の学校に通学出来ない合理的な理由が必要となります。 また、自治体間で実施している子育て支援（学童クラブ・就学援助費等）なども統一ではないため、学校内に在籍していても、お子さんだけが享受できない事案も発生すること出てきてしまいます。 なお、他市町村から館山市内の学校に通学することとなる子供への負担も含め検討しなければならないことも多く、現時点では前向きな回答が出来ないことをご理解ください。